

磯丸の作った歌

磯

丸は生涯にたくさんの歌を作ったといわれています。

その中でまじない歌は、当時の民衆の「喜び」や「祈り」「困り事」「願い事」など、人々から頼まれるまま歌にしたものです。

磯丸に歌を詠んでもらい、その歌を掛軸にしたり石碑にしたりすると、不思議と願いがかなったといふことです。

まじない歌人の印象が強い磯丸ですが、まじない歌ばかりを作っていたわけではありません。伊良湖を詠んだ歌や旅先での挨拶歌、言葉遊びに近く、ゲーム感覚で詠んだ遊戯歌（折込歌）なども多くあります。



糟谷磯丸肖像（部分）

きみすだむらひこ
君升田村彦によって描かれた74歳の磯丸。
（天保8年[1837]／個人蔵）



まじない歌（家内安全歌）

糟谷磯丸筆。

（弘化2年[1845]／渥美郷土資料館蔵）

遊戯歌（折込歌） 百々・日の出松歌碑

（百々神社／六連町）

◎まじない歌

【家内安全歌】

むつまじく 君もろともに
住吉の まつに契りて
千世も栄えよ

住吉神社の松のように末永く子孫が栄え、我が家の繁栄が約束されるようにと願いを込めた歌。磯丸のまじない歌の中でも最も多く詠まれたと考えられるもの。

【病の治る歌】

すませただ 心しきよく
すみぬれば やまひは水の
あはと消まし

病気が早く治るようにと願いを込めた歌。この他にも具体的な病名をあげて詠まれたまじない歌も多くある。

◎遊戯歌

【折込歌】

ひとよとへのき端のつゆにてりそひて まつのこのまの
つきのさやけさ

百々神社にあった日の出松という伝説の神木のこと「ひのてまつ」の五文字を歌の頭に詠み込むことで表されている。



天保3年（1832）
伊良湖村に大火事があった



村人家は
こんだけの
被害があった
というのに…
なんと…ッ



何もかも
燃えちゃった
のん…

もう
だめじゃ…



水野梅子